



成長曲線を記録し「おや?」と思ったら迷わず専門医・小児科医の受診勧めて 重要な保健師、保育士、幼稚園教諭、養護教諭の役割



創刊 1946(昭和21)年5月1日

発行所
日本教育新聞社
〒105-8436
東京都港区虎ノ門1-2-8
電話03(5510)7777(大代表)
郵便振替 00150-8-196500
©日本教育新聞社 2010
〒03(5510)7828
Eメール kodoku@kyoi-ku-press.co.jp
http://www.kyoiku-press.co.jp

学校保健 特別版 名古屋版

「成長曲線を積極的に活用して、子どもたちの健やかな成長を温かく見守り支援して欲しい」。子どもの背が低い・背が高いというのは個性の一つ。成長の「早い遅い」はあっても、その多くは問題のないケースがほとんどだ。しかし中には、早期発見・早期治療が不可欠な疾患が隠れていることもある。子どもたちの成長の背後には何が隠れているのか? どうすればいち早く疾患に気づくことができるのか? 気づいた場合にはどう対処すればよいのか? 愛知県名古屋市の川村小児科の川村正彦先生と星野真貴子先生に、子どもの健やかな成長を見守っていくためのポイントと注意点、疾患を発見した場合の対処方法についてお話をうかがった。

最近では2500g以下で生まれてくる子ども(低出生体重児)が増えているが、それ以外にも母親のお腹の中にいる期間(在胎週数)に相当する標準身長・標準体重に比べ、小さく生まれてくる子ども(小さく生まれてくる子ども)にも注意深く成長を見守ることが必要だ。「これまで新

保育園や幼稚園が果たすべき大きな役割

在胎週数に相当する標準身長・標準体重に比べて小さく生まれることは、早産・正期産ともあるので注意が必要。小さく生まれてきた子どものほとんどは、2〜3歳までに成長が追いつくので、心配し過ぎることはないものの「3歳を過ぎて小さい場合には要子エックです」と川村先生は続ける。なぜなら

その場合「SGA性低身長症」という疾患の可能性があるから。SGA性低身長症の場合、小児期を通じて大人になっても身長が低いままというだけでなく、さまざまな疾患にも罹りやすくなるそうだ(コラム参照)。

成長が追いついていないかどうかは、「3歳児健診の場を活用して確認することが望ましい

特に注意したい 女兒のターナー症候群

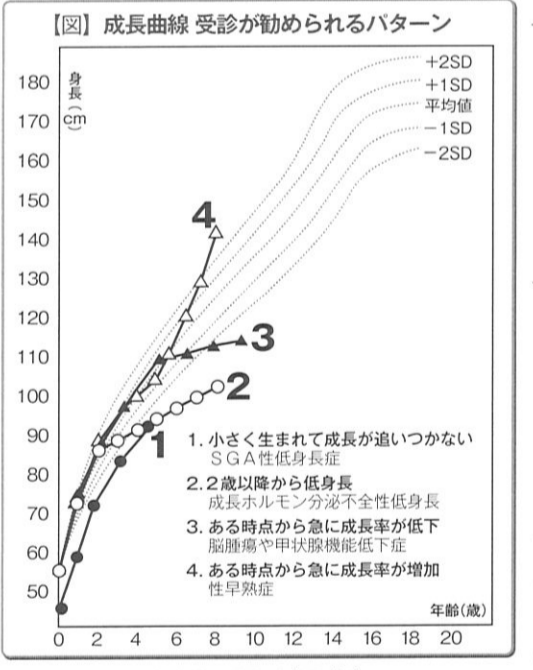
川村先生と星野先生によると、多くは「特

【表】年齢別 標準身長

男子			女子		
暦年齢	標準身長	-2.0SD	暦年齢	標準身長	-2.0SD
3歳0ヵ月	93.3	86.4	3歳0ヵ月	92.2	85.5
4歳0ヵ月	100.2	92.5	4歳0ヵ月	99.5	91.9
5歳0ヵ月	106.7	98.1	5歳0ヵ月	106.2	97.7
6歳0ヵ月	113.3	103.8	6歳0ヵ月	112.7	103.4
7歳0ヵ月	119.6	109.5	7歳0ヵ月	118.8	108.8
8歳0ヵ月	125.3	114.7	8歳0ヵ月	124.6	113.9
9歳0ヵ月	130.9	119.7	9歳0ヵ月	130.5	118.8
10歳0ヵ月	136.4	124.5	10歳0ヵ月	137.5	136.9
11歳0ヵ月	142.2	128.9	11歳0ヵ月	143.7	130.2
12歳0ヵ月	149.1	133.9	12歳0ヵ月	149.6	137.0

(単位:cm)

-2SDより小さい場合は、一度相談を



図表監修: 川村 正彦 先生・星野 真貴子 先生

胎児期に低栄養だと将来メタボになる??

最近の話題

胎児プログラミング仮説: 提唱した英国の疫学者の名前から「パーカー仮説」ともいわれている。胎児期に栄養状態が悪いと、赤ちゃんの身体は低栄養状態でも大丈夫のようにプログラミングされる。出生後に栄養状態がよくなると、低栄養状態に慣れたその子にとっては、過栄養状態となって体脂肪が増えやすくなる。結果的に、肥満になるだけでなく2型糖尿病や高血圧症などの病気を引き起こしやすくなる。

性や家族性の低身長だが、以下のような低身長を呈する疾患もある。①ホルモン分泌の異常②「成長ホルモン分泌不全性低身長」③「甲状腺機能低下症」④「甲狀腺機能低下症」⑤「思春期早発症」など

「正常な成長はプラスマイナス2SDの範囲内に入らなければなりません」(川村先生・星野先生)

「成長曲線」で読み取ることが出来るのは、SGA性低身長症だけではない。多くの疾患が隠れているという。

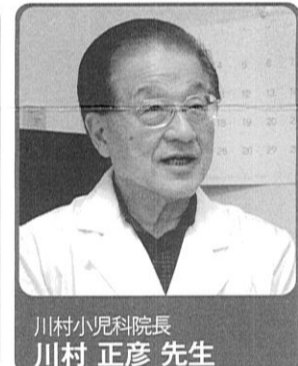
治療の可能性を やさしく説明して

とはいえ、たくさんのお子や園児、児童を抱えている保健師や保育士、幼稚園教諭や養護教諭は、対象となる子どもたちすべての身長を「成長曲線」に付けていくことは実に大変な作業。川村先生は「子どもたち

の未来のため、できればすべての子どもの成長曲線をかいてチェックしてほしいので、難しい場合は、子どもが身長順に並んだ際、1番前や前から2、3番目の子どもたちには注意を促して欲しい」と川村先生と星野先生。そして「受診した結果、病気でないことがわかれば安心しますよ」と前向きに考えてもらえようとお話をすることがコツという。



川村小児科副院長
星野 真貴子 先生



川村小児科院長
川村 正彦 先生

「3歳以降では翼状頸(よくじょうけい)や外反肘(がいはんちゅう)など、首やひじが特徴的な形状を示すことで発見されることもありますが、身長が低いこと以外に症状が表れないことが多いです。思春期になっても生理が来ない腎不全」「脳腫瘍」など「軟骨無形成症」「軟骨低形成症」など、低身長の治療が可能なケースもあるので、詳しくは内分泌医や専門医に相談を。

その他にも虐待や愛情遮断症候群など、社会的・精神的な要因も身長伸びに悪影響を及ぼすという。

「子どもは健やかな成長は、明るい未来を暗示しています。『成長曲線』を活用することで、それが確実に現実化できる。そのためには私たち小児科医や専門医は全力で協力します。『おや?身長の伸びが低下している、思春期前に急に身長が伸びている、成長曲線のパターンが標準と異なる』と感じたら、ぜひ保護者に受診を促して下さい」と声を揃える。

取材協力
ファイザー(株)